

## DOCOMOMO Japan による「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に 和歌山大学松下会館が選定されたことに関するご挨拶

DOCOMOMO Japan における「日本におけるモダン・ムーブメントの建築 280 選」としてこのたび和歌山大学松下会館が選ばれたことに心からお礼申し上げます。

さて、松下会館は大正から昭和にかけて関西を中心に活躍した建築家・渡辺節氏によって設計され、竹中工務店が施工を担当しました。渡辺氏の設計は、大阪市の綿業会館や岸和田市の自泉会館をはじめとする華麗な様式建築で知られていますが、戦後の作品には、松下会館をはじめ伝統のなかに新しさを感じさせる手法が多く取り入れられているという印象があります。松下会館のファサードに使用された穴あきブロックをはじめ、特に講堂は最も重要な部分であり、高い窓と照明装置にも留意され、音響効果には特別な関心が払われたと伺っています。

松下会館は1961年(昭和36年)、和歌山市出身で松下電器産業株式会社(現・パナソニック株式会社)の創業者である松下幸之助氏の寄付によって建設され、当時の和歌山大学経済学部構内に位置していました。建設の目的は「学内の人間関係を緊密にすること」「学生の自治活動を盛んにすること」などと、「和歌山大学松下会館規程」第一条に記されています。

竣工当時、建物の1階には玄関ホール、売店・食堂・集会室・保健室・学生相談室などが配置され、2階には講堂と「画廊」と位置づけられた講堂のホワイエ・録音映写室・和室・音楽練習室・クラブ連絡室などがあり、学生たちで賑わっていました。

その後、1987年(昭和62年)に経済学部が栄谷キャンパスに移転したため、松下会館は空き館となりましたが、1998年(平成10年)に和歌山大学生涯学習教育研究センター(現在の紀伊半島価値共創基幹 生涯学習・リカレント教育推進室)として再開し、市民講座や土曜講座など一般市民に親しまれる教育研究拠点となりました。私自身も生涯学習センター開設から約4年間、毎月1回の生涯スポーツ講座を開催するなど、思い出深い拠点です。

しかし、2017年(平成29年)に生涯学習センターが栄谷キャンパスに再度移転して以降、和歌山大学関係者の不在期間が続いていました。しかし、2019年(令和元年)に和歌山大学創立70周年記念事業が行われ、松下会館再生事業がスタートし、多くの皆様からのご支援をいただいた結果、2023年(令和5年)2月に「地域と共創する大学」を具現化するシンボルとして新たな姿で蘇りました。現在は生涯学習及び社会人の学び直し(リカレント教育)活動を中心に、教育研究活動の促進や社会との連携・交流の拠点として活動しています。まだまだ利用可能な状態には至っていませんが、和歌山大学のこの拠点が和歌山県のシンボルとして他の大学などからの支援を受けながら、活発な地域貢献拠点となるよう努めてまいります。

最後になりましたが、和歌山大学松下会館の歴史的・文化的価値について十分認識し、その価値を次世代への継承と保全に努めてまいります。何卒、皆様のご支援ご協力のほどよろしく願いいたします。

令和5年7月17日 和歌山大学18代学長 本山 貢